

# 令和6年度 入学試験（一般 第2回）問題

## 国語

受験番号		氏名	
------	--	----	--

- 指示があるまで開かないこと。

令和6年1月20日(土) 9時00分 ～ 9時45分

### 【注意事項】

- 試験問題の数は26問です。
- 問題用紙及び解答用紙に受験番号・氏名を必ず記入してください。  
解答用紙はマークシートと記述解答用紙の2枚あります。下記の記入例をみて記入してください。
- 解答は、指示に従いすべて解答用紙にマークしてください。問題用紙に記載しても無効です。  
なお、マークシートの解答用紙には解答欄が50問までありますが、26問からはマークしても無効です。
- 試験問題は四-【21】以外すべて5つの選択肢があります。質問に適した選択肢を選び、その番号を解答用紙にマークしてください。2つ以上マークした場合は無効となります。  
なお、試験問題の四-【21】については、記述解答用紙の問26に記入してください。

### 【解答用紙マークシート記入例】

フリガナ	セイ トウ ハナ コ	年	月	日	国語
氏名	聖 灯 花 子	6	1	20	

### 〔受験番号記入例〕

番 号	問	解 答 欄	問	解 答 欄
32001	1	① ② ③ ④ ⑤	11	① ② ③ ④ ⑤
	2	① ② ③ ④ ⑤	12	① ② ③ ④ ⑤
	3	① ② ③ ④ ⑤	13	① ② ③ ④ ⑤

### マーク例

良い例	悪い例
●	☑ ○ ●

※番号欄には、右づめで受験番号を記入し、該当部分の数字をマークしてください。

### 【記述解答用紙記入例】

受験番号
32001
氏名
聖 灯 花 子
評 定

令和六年度 入学試験（一般 第二回）問題（国語）

一次の文章を読んで、後の【1】～【7】に答えなさい。

夏目漱石の『三四郎』に、本郷の団子坂に菊人形を観に行ったときのことが書かれてある。

「二行は左りの小屋に這入った。曾我の討入がある。五郎も十郎も頼朝もみな平等に菊の着物を着てゐる。但し顔や手足は悉く木彫である。其次は雪が降つてゐる。若い女が癩を起してゐる」

明治末の菊人形展の賑わいや、菊の花々のかもしだす息づかいまだが伝わってくるような一文である。

菊人形といえ、子供の頃に一ぺんだけ父に連れられて観に行ったことがある。場所は上野公園だったと思うが、はつきりと覚えていない。戦後も数年経った頃のこと、あたりはたいへんな賑わいだった。たぶん、明治末の団子坂の菊人形と同じように歴史上の人物や歌舞伎の名場面などが並んでいたであろうが、これも明確ではない。今でも覚えているのは菊人形が大人の等身大だった驚きと、菊の花の衣裳のぼつてりとしたあでやかさが妙に生々しいことだった。

そのときの菊人形へのうす気味悪さには、大勢の人混みに父と離ればなれになってしまった心細さもあつた。私は半泣きのようになって父を捜した。なにしろ、北陸の田舎で育った私は、こんなに大勢の人たちを見たことがなかったし、その賑わいだけで\*を感じていた。

父の姿を見つけたのは、菊人形展から少し離れた大きな樹の下だった。父は私を捜しくたびれたのか、傍にいても気づかぬようなぼんやりと疲れた表情で立っていた。

「ひどい父親よね。娘が迷子になったのも気づいていなかったんだもの」

父が亡くなって間もない夜、ふいにあの日の光景が思い出され、私は友人にぼやいた。友人は父を知っていた人だけに、急にそんな思い出話になってしまったようだった。

「いや、男にはそういうときがあるよ」

友人はしばらく考え込むようにして、息子を動物園に連れていったときの話を始めた。

ある日曜日、友人は急に息子と二人だけで動物園に行こうと思ひ立ち、出かけた。五歳の息子は、父親との外出にはしゃいで電車に乗った。新宿駅で乗り換えのときは息子の手を確かに握っていた。山手線に乗り、窓の外をぼんやり眺めて、今日はなんていい天気なんだろうと思つているうちに、電車が止まった。友人はそのまま息子が傍にいても忘れてプラットホームに降りてしまった。

「息子の声で、ハッと気づいたんだ。息子はオレを睨みつけるように見ていたよ。オレが急に電車から降りたもんで、てっきり捨てられたと思つたらしい」

友人は、ほろ苦い顔で盃の酒を口に運んだ。

そういえば、あの子の父はまるで魂を(a)のような姿だった。父はなぜ、菊人形を観に行こうと思つたのか。それも三人の子供たちの中で、どうして私だけを通して行つたのであろう。

菊人形たましひのなき匂ひかな

渡辺水巴

歳時記には、菊にまつわるうつくしい季語が幾つも並んでいる。菊枕、菊酒、菊の露、菊供養など、どれも菊の花で邪気を払い、延命に効ありという中国からの習わしに結びついている。菊が皇室の紋章にもなっているところから日本古来の花と思いがちだが、奈良時代の末期頃に中国より渡来したらしい。

山形では菊脛を「もつてのほか」と方言で呼ぶ。皇室の紋の菊を食べるなどもつてのほかだということからの意だというが、この花びらを茹でて三杯酢にしたものが意外においしいので、「思いのほか」という地方もある。

菊酒は、菊の花びらを浮かべた酒のこと。平安時代より朝廷では陰暦九月九日の(b)の節句には菊酒を飲んで災厄を祓った。菊の露には、中国に菊慈童にちなむ話があつて、長寿を得る靈薬だという言い伝えがある。

昔、周の穆王に愛された慈童という童子は、科をおかして酈県という深山に追われた。しかし、周の王は慈童

をあれと思われ、ひそかに**⑤**経文を授ける。慈童がその経文を菊の葉に書きしるすと、菊の露は霊薬となった。慈童は、童子の姿のまま七十七歳まで長生きをした。またその深山から湧く水を飲んだ者は、みな長寿を得たそうだ。

慈童の故事は、中国では菊が神仙思想に結びついていたことを語っている。日本に菊が渡って来た背景にはそうしたためたさを**⑥**「(b) 氣持が、平安時代の貴族たちの趣向にかなったのであろう。」

延命長寿の菊の花ではなく、菊の精と人間の男との愛の交感をまじえた民話がある。新潟県小千谷に伝わる「菊の精」の話だ。

昔、貧乏な一人もの兄にやがいたてや。

兄にやは菊の花が好きだったので、秋になると家の庭にきれいな花を咲かせ、大事に育てていた。

ある年の秋、いつもより菊の花がきれいに咲いたてや。

「今年の菊のなんてきれいすら。そげな嫁さんがおらにも来てくれたらな」

兄にやはそういつてみとれておった。すると、その晩、雨がシッポシッポ降って、なんともいとしげな娘が訪ねてきたてや。

「今夜ひと晩とめておくれ」

娘がいうので、兄にやは喜んで泊めたてや。

翌朝、兄にやが起きると家の中は片づき食事の支度まで出来ていた。明日もいてくれたらと兄にやが思って畑から帰ってくると、娘はいそいそと出迎えてくれたてや。

そのうち、兄にやと娘は仲良うなった。嫁さんになったてや。娘は働きもんだたし、暮らしむきも以前よりずっと楽になった。ほうしたが一っだけ兄にやに不満があった。このいとしげな娘、足がいつもべと(土)をつけてなんとも汚ねかったてや。

「おまえの足はべとだらすけ、おらが洗うてやろう」

兄にやは娘が風呂に入りたがらないので、たらいに湯をくんできてむりやり足を洗ったてや。ほうせば、今の今まで元氣だった娘が病氣になってしまった。あくる朝のこと、兄にやが目覚ますと、娘の姿はかき消えていた。

兄にやが捜しあぐねてぼんやり庭を眺めておると、昨日までうつくしく咲いとった菊の花の根がきれいに洗われ、枯れてしまっていたてや。

菊の精は、人間の女になって訪れる。嫁さんとなるがやはり人間の女になれず破局を迎えてしまう。愛の始まりと終りも人間の姿であって、どこか切ない話だ。

明治の**⑦**作家に、「お百度詣」の詩で知られる大塚楠緒子という人がいた。夏目漱石が東京を去って松山に行ったのはこの女人への失恋によるという伝説がある。漱石の親友と結婚した楠緒子は、伝説が生れるにふさわしい美貌と知性を具えていた。

晩年の漱石が書いた『硝子戸の中』には、雨の日に一台の幌俵に乗った楠緒子の姿が、一枚の懐かしい絵を見るように描かれている。この大塚楠緒子が亡くなったのは、明治四十三年十一月九日の秋の日のことである。享年三十五歳だった。

入院中だった漱石は、楠緒子の死を伝え聞くと、

有る程の菊抛げ入れよ棺の中

という句をつくり、しのんだ。

漱石のこの句には、「抛げ入れよ」という言葉の中に心の揺らめきが感じられる。ろうたけた女人だった楠緒子にふさわしいのは、白い菊でもあったろう。

それにしても、死者の棺を白い菊で埋める風習は、いつの頃より始まったのだろうか。

(辺見じゅん『菊人形』)

【1】 傍線部A⑥の漢字の正しい読みを、それぞれ①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。

【解答欄は問1 2】

- 1 A ①とが ②つみ ③しな ④わな ⑤ぼつ  
2 B ①きょうぶん ②けいもん ③きょうもん ④けいぶん ⑤きょうぶみ

【2】 空欄ア①に該当する語を、それぞれ①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。【解答欄は問3 4】

- 3 ア ①人日 じんじつ ②上巳 じょうし ③端午 たんご ④七夕 たなばた ⑤重陽 ちゅうよう  
4 イ ①眉目 びもく ②佳人 かじん ③秀丽 しゅうれい ④閨秀 けいしゅう ⑤佳麗 かれい

【3】 傍線部「魂を」に続く(a)として正しいものを、①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。

【解答欄は問5】

- 5 ①とばした ②わすれた ③はずした ④かすめた ⑤なくした

【4】 傍線部「めでたさを」に続く(b)として正しいものを、①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。

【解答欄は問6】

- 6 ①喜ぶ ②尊ぶ ③讃える ④寿ぐ ⑤望む

【5】 空欄\*に該当する語を、①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。【解答欄は問7】

- 7 ①ためらい ②遠慮 ③気後れ ④及び腰 ⑤とまどい

【6】 夏目漱石の作品として正しくないものを、①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。【解答欄は問8】

- 8 ①『それから』 ②『門』 ③『道草』 ④『舞姫』 ⑤『明暗』

【7】 筆者は傍線部で、読者に何を伝えたかったのか。筆者の思いとしてふさわしいものを、①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。【解答欄は問9】

- 9 ①大切な人を今度こそ永遠に失ってしまったことへの、漱石の絶望が実感できる、という思い。  
②白い菊に象徴される楠緒子という女性への、漱石の心の深さと重さが改めて偲ばれる、という思い。  
③楠緒子という女性に花を重ねるならやはり白い菊しかない、と再認識させられた、という思い。  
④今となってはどうする術もなくなった漱石の心に、何とか寄り添いたい、という思い。  
⑤白い菊に囲まれた楠緒子という女性の人生を、漱石と重ねて考え続けていかねば、という思い。



二次の【8】～【12】のことわざの空欄の語として、最もふさわしいものを、それぞれ①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。

【8】 「庇を貸して」を取られる【解答欄は問10】

①玄関

②廁

③母屋

④床の間

⑤屋根

【9】 「短気は」【解答欄は問11】

①逸機

②損気

③好機

④勘気

⑤勝機

【10】 「に居て乱を忘れず」【解答欄は問12】

①平

②無

③鎮

④治

⑤常

【11】 「年寄の」【解答欄は問13】

①重湯

②行水

③白湯

④産湯

⑤冷水

【12】 「江戸の敵を」で討つ【解答欄は問14】

①長崎

②鹿児島

③京都

④下田

⑤函館

三次の【13】～【17】の作品名の空欄の語として正しいものを、それぞれ①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。

- 【13】 『カインの [ ] 』（有島武郎作）【解答欄は問15】
- ①子孫                      ②末裔                      ③血縁                      ④後胤                      ⑤係累

- 【14】 『 [ ] の彼女』（角田光代作）【解答欄は問16】
- ①磯浜                      ②海辺                      ③川下                      ④対岸                      ⑤湖畔

- 【15】 『きかんしゃ [ ]』（阿川弘之文／岡部冬彦絵）【解答欄は問17】
- ①さいもん                      ②ひこえもん                      ③ごえもん                      ④あもん                      ⑤やえもん

- 【16】 『 [ ] よさらば』（アーネスト・ヘミングウェイ作）【解答欄は問18】
- ①武器                      ②友                      ③青春                      ④病                      ⑤故郷

- 【17】 『どろんこ [ ]』（ジーン・ジオン文／マーガレット・B・グレアム絵）【解答欄は問19】
- ①ラリー                      ②チェリー                      ③ハリー                      ④ジェリー                      ⑤マリー

四次の文章を読んで、後の【18】～【21】に答えなさい。

ただだって人間が必ず死ぬものだということは知っている。同時に、だれも彼も決して死を歓迎しない。その意味で、死についての知識と感情は、私たちのなかで対立し、矛盾し合っている。この矛盾が、月毎に、年毎にだんだん露骨さをましてくるのが老年だと言える。もう一度はっきり言おう。死はまぬがれない、しかもなるたけ死にたくない——このわかりきった人間の心理的状況にメイリョウな決着をつけてくれる思想も、哲学も、私たちはもっていない。

たとえば、人の生命は地球より重いという。ア、身近な人が八十歳で亡くなれば、「まあ、年に不足はない」と、悟ったような、あきらめたような言い方をする。しかもその口の下から、「あの人もガンにさえならなきゃ、あと三、四年は生きられたろうに。せめてあと一、二年は生きていて欲しかった！」と言う。結局、私たちは老年と死に、てこずっているのだ。モンテーニュの言うように、「人間は病気で死ぬのではない。生きているから、死ぬのだ」と、はっきり「生をあきらめ、死をあきらめる」(『修証義』)ことがほんとうに出来たら、文句はあまるまい。

生ある者は死す——これは人間にとっていつまでもすっきりと解決のつかない厄介な問題だ。私は最近、吉田寿三郎著『高齢化社会』(講談社・現代新書)という本を一読した。簡潔に現代と未来社会における長命問題を論じたものだ。著者は現代を「人工長命時代」と呼ぶ。そして老人がなかなか死なない「長命地獄」の出現の条件として、①医学の発達、②栄養の充足、③寒暖の調節の実現、をあげる。確かにその通りだ。問題は、これら三つの条件の研究が互いに連絡をとらず、勝手に発達し過ぎた点にある。電機メーカーは自分たちが長命地獄をつくり出したわけじゃないというだろう。製薬会社も同じだ。つまりこの三つの長命条件を統合して考え、人間の長命ということが、人間にとってどういうことを考察しなかったのだ。現代の長命は、一体だれのためか。だれを幸福にしたか。それは老人自身のためか。老人をとりまく近親者のためか。医学のより一層の研究のためか。人間は死ぬべきものだ。死は人間にとって当たり前のことだ。それなのに、科学も宗教も明確に、人間にとっての死の意味を、肯定的に説かない。宗教は死んだ人を祝福する。しかし、死を無上の喜びとして祝福しない。生きていることの喜びを断念しないで死ぬ——死と生とのこの相容れ得ない矛盾をなんとかうまく忘れさせ、いや、調和させようとして、人々が今日思いついたものが「安楽死」という考えのように思われる。それは生きていく人間にとって、本来、鋭い\*である死を、\*でないかのように、思わせようとする。自殺と他殺との根本的なちがいを、まるく①、そのいずれでもないかのように思いこませる。さらにまた、ガンの末期患者に、ガンの苦痛と死の不安を最小限度にとどめ、うまく行けば忘れさせようとして、最近、「ホスピス」といわれる設備、いや手段を思いついた。麻薬の痛みどめによって死の\*\*\*を忘れさせ、死ぬ日まで生の喜びを味わわせようとする。

モーパッサンの短編に「老人」というのがある。考いと死はすべての人間の正常な「順番」として、娘や息子に受け入れられる。老人の死は動物の死のようにあっさりと受容される。

それは「順番」というより「順ぐり」と言った方が適切かも知れない。ひと頃大きな話題を呼んだアレックス・ヘイリーの長編『ルーツ』を思い出す。かなり長時間のそのTV映画を思い出す。黒人奴隷、クンタキントの辛い一生、その子供、またその子供たちのハランにとんだ運命を描きながら、TV映画の画面から、いつのまにか、年老いた親たちが次々と姿を消して行った黒人家系の物語を思い出す。老いたる父から子供に生のバトンがタッチされる——静かに、おだやかに。父たちの死は、一時は、悲痛な悲しみを残されたものに与える。だが、やがてまもなくそれも薄らぎ、生きているものの世界が展開される。「さあ、今度は俺の番なのだ!」——子供らはその生を、そして最後にはその死をそのように受け入れる。それは正しく「順番」なのだ。「順ぐり」なのだ。

そこでは特別の宗教も、② 永遠の生命といった分かりにくい概念も、この農民の間では不必要なのだ。もし人間に「順番」がなく、永久に死なないとしたら「生はそのまま地獄である」(ウラジミール・ジャンケレウィッチ『死』みすず書房)。永遠に死なないことは、死よりも一層恐ろしい。

帰するところ、老いと生と死、この三つのものは人間にとって始末に負えないものだ。その意味が分からぬものだ。

私たちは死の事実を知っている。だが、死の意味を知らない。だから、孔子は素直に言っている。「未だ生を知らず、いづくんぞ死を知らむや」。まるで「我々は神の在ることを知っている、しかし神が何であるかを知らない」と言っているパスカルのように。私たちは本当はなにも知っていない。知っていないものを知っているかのように言うのは、一体、どこのだれか。

(堀秀彦『長生き』)

【18】 空欄㉗㉘㉙に該当する語を、それぞれ①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。【解答欄は問20～22】

- |    |   |       |       |       |       |        |
|----|---|-------|-------|-------|-------|--------|
| 20 | ㉗ | ①そのくせ | ②なのに  | ③ところが | ④しかし  | ⑤さりとして |
| 21 | ㉘ | ①おさめて | ②ならして | ③なだめて | ④くどいて | ⑤まとめ   |
| 22 | ㉙ | ①ことさら | ②もちろん | ③とりわけ | ④ついには | ⑤いわんや  |

【19】 傍線部㉑㉒の漢字として正しいものを、それぞれ①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。

【解答欄は問23～24】

- |    |   |     |     |     |     |     |
|----|---|-----|-----|-----|-----|-----|
| 23 | ㉑ | ①明良 | ②明瞭 | ③明亮 | ④明了 | ⑤明陵 |
| 24 | ㉒ | ①刃瀾 | ②把瀾 | ③破瀾 | ④波瀾 | ⑤霸瀾 |

【20】 空欄\*・\*・\*・\*・\*には同じ語が入ります。正しいものを、①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。

【解答欄は問25】

- |    |     |     |     |     |     |
|----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 25 | ①ドク | ②ツメ | ③トゲ | ④キズ | ⑤ハリ |
|----|-----|-----|-----|-----|-----|

【21】 筆者は波線部で、読者に何を伝えたかったのか。五十字で述べなさい。【解答は記述解答用紙問26】

26 記述解答用紙へ



